

- 1 単元 「私たちの消費行動で社会を変えよう～サステナブルな附中を目指して～」
- 2 教科論と本単元の関わり

「批判的思考力」とは、その情報の背景にある価値観や立場、情報の組み立てられ方等を問いながら、知識に含まれている価値や規準、立場等を吟味する力のことである。また、「生成AIによる『仮想シナリオ』を用いた対話活動」とは、現実には存在しないが、特定の目的のために作成された仮想環境や状況である「仮想シナリオ」を用いて、現実の状況を模倣しながら生徒がより実践的に学ぶことを可能にする活動のことである。本単元においては、生徒が経済社会においてよりよい経済主体となるために必要な資質・能力を、身近な消費行動によって変化しうる社会を想定したり構想したりすることを通して育成し、豊かな未来社会を切り拓く生徒が育つことを期待する。

3 指導観

教材観・単元指導観	生徒観
<p>長期的な経済の低迷に対する市民の不満は時の政権に向けられ、経済という得体の知れない事象に無力感が漂う。しかしながら経済は政府や企業だけでなく個人の行動によっても大きく左右され得る。市民が経済の本質を理解し、経済主体としての自覚をもたなければならない。</p> <p>本単元は、身近な消費行動の社会的影響について吟味する活動を通して、経済主体の一員としての消費者である自覚を高めながらよりよい経済社会を形成する態度を育てることをねらいとする。経済とは経世済民、即ち世の中をよく治めて人々を苦しみから救うことをめざす社会の営みである。たとえ中学生であっても消費者という経済主体として経済社会の形成に参加しており、主権者としての営みは政治参加にとどまるはずはない。この際、消費者主権という概念を用いて主体的に社会を変革させようとする態度を育てることは、大変意義深いといえる。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- 経済主体の行動の特徴や経済における消費者主権と国民主権との同義性、企業と消費者の情報の非対称性、消費行動が社会にもたらす影響等について、資料をもとに説明することができる。
- 自らも経済主体の一員であることを自覚し、よりよい経済社会を形成する経済主体としての消費者の姿勢について、適切な根拠を示しながら構想することができる。
- 自らも経済主体の一員であることの自覚を高め、よりよい経済社会を形成する経済主体としての消費者の姿勢について構想し、社会にもたらす影響を踏まえながら実践しようとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 経済主体の行動の特徴や経済における消費者主権と国民主権との同義性、企業と消費者の情報の非対称性、消費行動が社会にもたらす影響等について、資料をもとに説明している。</p>	<p>イ 自らも経済主体の一員であることを自覚し、よりよい経済社会を形成する経済主体としての消費者の姿勢について、適切な根拠を示しながら構想している。</p>	<p>ウ 自らも経済主体の一員であることに気付き、望ましい消費行動について検討しようとしている。</p> <p>エ 経済主体の一員であり、よりよい社会を形成する消費者としての自覚を高め、社会に働きかけようとしている。</p>

6 計 画 (6～7時間)

次	配時	学習活動・学習内容	主たる手だて (○)	評価
一	1	<p>1 経済の仕組みを概観し、経済主体が行なうべき経済活動を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済主体としての家計、企業、政府 ・経済活動の役割と責任 ・「経世済民」としての経済活動が目指す社会と消費行動の可能性 ・経済主体としての家計の一部を担う消費者に求められる役割と責任 	<p>○ 「経済」の本質への関心を高めさせるために、経済の語源である「経世済民(世の中をよく治めて人々を苦しみから救うこと)」を提示し、経済という語句に対する既存の印象との差異について問う。</p>	ウ
		<p>【単元を貫く課題】 私たちの消費行動で社会を変えよう。</p>		
二	1	<p>2 社会を変えるための消費行動について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の消費行動が社会に及ぼす影響 ・「応援消費」としてのエシカル消費や「押し消費」の概要と具体例 ・「応援消費」によって変わり得る社会と日常の消費行動における実現性 	<p>○ 身近な消費行動によって社会を変革できる可能性に気付かせるために、「応援消費」の具体例と効果をもとに「仮想シナリオ」による仮想社会実験を行なわせ、その実現性を問う。</p>	イ
		<p>【パフォーマンス課題 (PT)】 私たちの学校備品や消耗品の消費形態を見直して、サステナブルな附中をつくるための企画書を学校や大学に提案しよう。</p>		
三	3 ～ 4	<p>3 サステナブルな附中をつくるための企画書を提案する。</p> <p>(1) 学校内の備品や消耗品の使用状況を調査し、消費形態を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証マークの種類と認証基準 	<p>○ 身近な消費行動による社会変革の可能性に気付かせるために、学校内の備品や消耗品の改善提案に関する活動を設定する。</p>	イ
	本 時	<p>(2) 企画書を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と消費者の情報の非対称性 ・「経世済民」を担う経済主体としての企業や消費者の経済活動の実際 	<p>○ 現実的な改善策を作成させるために、「仮想シナリオ」や専門家の助言を比較検討させる場を設定する。</p>	イ
		<p>(3) 企画書を学校や大学に提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「経世済民」を担う経済主体である消費者としての実践への見通し 	<p>○ 経済主体としての社会実践意欲を高めさせるために、提案先からのフィードバックもとにした議論の場を設定する。</p>	イ
四	1	<p>4 消費行動で社会を変えるために自分たちがすべきことを宣言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治の原則としての国民主権と経済における消費者主権の同義性 ・社会変革の手段としての経済活動の在り方 ・「経世済民」を担う経済主体としての自覚 	<p>○ 経済活動を社会変革の手段として捉え、経済主体としての自覚を高めさせるために、宣言文を学校の掲示板や新聞投書、SNS投稿等で公開する機会を与える。</p>	ア エ

7 単元を終えた生徒の想定される姿

自分たちの消費行動が社会や環境に様々な影響を及ぼすことを実感し、エシカル消費の実践による持続可能な社会の実現への参画意欲が高まるだろう。また、表面的な情報にとらわれず、批判的思考をもとに、他者と協力してよりよい社会を形成しようとする姿勢が育ち、社会に積極的に関わる意欲が高まるだろう。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日（金）5校時 一次の2 3年1組教室にて

(2) 第三次を通じた主眼

より実現性を高めた「サステナブルな附中をつくるための企画書」を作成または作成までの骨子を検討する活動を通して、エシカル消費が社会に与える影響や、エシカル消費を実践する上での社会的な課題を説明し、それらを踏まえた経済主体としての消費者像を捉えることができる。

(3) 想定される生徒の学習活動

想定される学習活動		形態	配時
【前時までで想定される学習活動と生徒の学びの文脈】 前時までで生徒は学校内の備品や消耗品等の使用状況を調査し、消費形態を見直す活動を行なっている。そのなかで、生徒は学校内で使用される備品や消耗品等を「エシカル商品」に変更することを検討し始めている。		—	—
1 前時までに行なった学習活動を振り返り、本時のめあてをもつ。		個	5
想定 a	現実的に実行できるエシカル消費の方法を考え、より実現可能な企画書を作成しよう。		
想定 b	エシカル消費の効果や課題を調査し、実際に導入可能なエシカル商品を検討しよう。		
想定 c	学校の設置者や利用者がもつべき、サステナブルな学校をつくるための留意点を明らかにしよう。		
2 学校の備品や消耗品等を「エシカル商品」に変更することの実現性や実効性に関する検討を行なう。		個/G	15
3 より実現性を高めた「サステナブルな附中をつくるための企画書」を作成または作成のためのアウトラインを検討する。		個/G	20
想定 a	「仮想シナリオ」から得た知見をもとに企画書の作成等を行なう。		
想定 b	専門家からの助言をもとに改善案の作成等を行なう。		
想定 c	「仮想シナリオ」から得た知見と専門家からの助言等を比較検討しながら企画書の作成等を行なう。		
4 エシカル消費の実際を踏まえ、経済主体としての消費者像を構想する。 (1) エシカル消費が社会に与える影響や、エシカル消費を実践する上での社会的な課題を共有する。 (2) (1)で共有した意見を踏まえ、経済主体としての消費者像のあるべき姿を構想する。		個	10
【次時に向けて想定される生徒の学習活動と生徒の学びの文脈】 経済主体としての消費者像を明確にした生徒たちは、学校の持続可能性を高めるための消費形態の具体像をもとに企画書を完成させ、大学や学校に向けた提案準備を行ない、実際に提案する段階へと進むだろう。		—	—

(4) 主たる手だて

実際の社会の状況に即した現実的な企画書を作成させるために、「仮想シナリオ」や専門家の助言を比較検討させる場を設定する。

(5) 想定される生徒の姿

展望する姿	エシカル消費の導入が学校全体に与える長期的な影響を想像し、より良い社会の実現に向けた理想像を描く姿と捉える。
行動する姿	学校内の消耗品や備品等の使用状況等を調査し、エシカル商品への切り替えの可能性を検討した上で企画書を大学や学校に提案し、社会を変革しようとする姿と捉える。
省察する姿	消費者としての責任や役割についての自覚を高め、自分たちに可能な社会変革の内容や方法を常に再考しながら、改善点や新たな行動方針を構想する姿と捉える。

(6) ゲストティーチャーについて

- サステナブルな社会をつくるために地域社会に貢献している企業や官公庁、公益団体等に協力を頂き、生徒への指導や助言を依頼するものである。
- (公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会様には、リサイクル製品の普及状況や課題、エシカル消費を行なうことによる効果やエシカルな製品を生産する企業をめぐる状況などについて専門的な知見からご指導・ご助言を頂きたい。

期日	校時	対象学級	講師名	備考
1 1月7日(木)	3	3年2組	橋本 裕美子 様	予備実践
1 1月7日(木)	4	3年3組	橋本 裕美子 様	予備実践
1 1月8日(金)	5	3年1組	鈴木 亜希子 様	本実践

(7) 「仮想シナリオ」について

- 主に本時の学習活動3で活用させることを想定しているが、特に活用の場面を制限するような指導は行なわない。
- 本時は特にG Tを招聘しているので、「仮想シナリオ」は次の点において効果を発揮するものと考えられる。
- 一つは、G Tへの質問の質を向上させることが期待できる。「仮想シナリオ」は、生成A Iによって社会の集合知に基づいて生成されるため、生徒の知的レベルを超えた問いが生まれることが想定される。
- 二つは、「仮想シナリオ」と、実際に社会の形成に携わっている企業がもつ専門知との差異に気付くことによって、批判的思考力の育成を推進させることが想定される。
- 本時において想定している「仮想シナリオ」の生成プロンプトを以下に例示する。
 - ・ あなたの学校で使用されているすべての紙製品（ノート、ティッシュペーパーなど）が、今後エシカル認証を受けたリサイクル紙に切り替わることになりました。これにより、学校全体でどのような変化が予想されるでしょうか？環境や経済、学校の費用、生徒の反応について考え、シミュレーションをしてください。
 - ・ 全校生徒が日常的に使用する消耗品（鉛筆、消しゴム、文房具類）がすべてエシカル商品に変わった場合、どのような社会的・経済的影響が予想されるでしょうか？その実現可能性と課題について考え、シミュレーションしてください。
 - ・ ある日、学校で供給・販売されるすべての飲料がフェアトレード商品に切り替わることになりました。フェアトレード商品が学校の経済、地域社会、さらには生徒の意識にどのような影響を与えるかをシミュレーションしてください。

(8) 「企画書作成のアウトライン」の例について

- ・ 「サステナブル度調査カード」を用いて企画書のアウトラインを作成。
- ・ 調査カードは「ロイロノート」の回答共有機能により、生徒間での相互閲覧が可能。

サステナブル度調査カード (例)	回答共有による相互閲覧
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">附中「サステナブル度」調査カード (例)</p> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">見直しが必要だと 思われる消費</div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="font-size: small; margin: 0;">家庭・学校・地域社会の役割</p> <p style="font-size: small; margin: 0;">調査記録</p> </div> <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">見直すべき消費</div> <div style="background-color: #ffe0e0; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">期待される効果</div> </div>	

(9) 「企画書」の例について

- Googleスライドのテンプレートを配付。
- 作成は個人、グループを問わない。

<p>1</p> 	<p>2</p> 
<p>3</p> 	<p>4</p> 
<p>5</p> 	

<参考文献>

水越康介・田嶋規雄(2023)『応援消費がよくわかる本』秀和システム。

満菌勇(2024)『消費者と日本経済の歴史』中央公論新社。

文部科学省編(2017)『中学校学習指導要領解説社会編』。

文部科学省初等中等教育局編(2023)「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」。